

令和4年度 第1回射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会 会議録

1 開催日時

令和4年9月29日（木）午前10時～午前11時15分

2 開催場所

射水市役所4階 401会議室

3 出席者

委員 宮嶋会長、串田委員、金田委員、山崎委員、倉敷委員、向田委員、
篠田委員、田中委員
事務局 福祉保健部地域福祉課 山口課長、長谷川課長補佐、竹島課長補佐、
浅井係長、竹口主任、山田主任、綿谷第1層生活支援コーディネーター
福祉保健部保険年金課 明課長
市民生活部市民活躍・文化課 齊木課長

4 欠席者

委員 門田副会長、中川委員、島田委員、室江委員

5 議題

〈報告事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について【資料1】

〈協議事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業における新規取組について【資料2】

6 会議資料

【資料1】射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について

【資料2】令和4年度射水市地域支え合いネットワーク事業における新規取組について

7 会議記録

○…各委員 ●…事務局

議題

〈報告事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について 【資料1】

○榎田地域は射水市内で唯一、射水市地域支え合いネットワーク事業未実施となっているが、当地域は少子高齢化が著しく進展している地域であり、以前から少子高齢化に対して様々な取組みを実施してきた。子どもからお年寄りまで3世代交流をはじめ、高齢者学級では社会福祉協議会と連携しながら、きららか射水100歳体操やその他の行事等、他の地域に劣らない取組みを行ってきた。ただ、本事業と現行の榎田地域の取組みはそぐわない面があった。本事業には申請や事業報告等、煩雑な事務が多くある。しかしながら、現在、射水市内27地域ある中で榎田地域だけが未実施である状況については認識している。この夏、榎田地域では住民アンケートを行い、その結果を基に今一度協議して、今後の活動の方針を決めていくこととしている。榎田

地域は、本事業について何も取り組んでいないわけではなく、独自の取り組みを行っている。

○射水市に限らず、すべての地域が同じように取り組みを行っていくには地域性があるので難しいことである。事務作業等が住民の方の負担にならないように事務局で考えていかなければならない。

〈協議事項〉

令和4年度射水市地域支え合いネットワーク事業における新規取組について【資料2】

○事業の周知については、パンフレットやチラシも良いが、実際に浸透させるには口コミが一番であり、口コミを発信できるツールがあれば良いと思う。また、スマートフォン体験教室やeスポーツ体験会の中で、例えばYouTubeに5～10秒の商業チャルが入るように、イベントの冒頭や途中で、動画を放映することで参加者が見ざるを得ない状況になると周知できるのではないかと。

スマートフォン体験教室については、決済部分まで踏み込んでいるのは良いが、一方で詐欺等の被害への心配がある。

eスポーツの介護予防への活用については、ディスプレイはテレビで大丈夫だと思うが、ゲーム機の準備はどうするのか。

●富山県内でeスポーツ事業を展開している株式会社ゾルゲでは、ゲームの機械を自社で所有しており、各地域の公民館等の集いの場に出向いてeスポーツの体験会を開催している。

○eスポーツは、体験だけではなく日常的な活用ができると良い。例えば、高齢者用のゲームがあると、毎日この時間はこのゲームをやろう、というような習慣をつけることができる。その時に、先程の商業チャルの動画が流れると、事業の周知も同時に図られて、なお良いと思う。

○移動支援について、黒河あいのりタクシー事業の受付は電話で行っているのか。

●高齢者の方が対象のため電話で受付をしている。

○スマートフォン体験教室を開催されているのだから、黒河あいのりタクシー事業の受付もスマートフォンでできるようになると良いと思う。「スマホの教室に行ってきた、スマホでタクシーの予約ができるよ。」「じゃあ私もやってみようか。教えてよ。」というように、どちらともが広く浸透していけば良いと思う。

○スマホ教室の時に特殊詐欺への対策をしているのか。

●スマホ教室の際、詐欺に関する注意喚起のチラシを配り、簡単な説明もしている。

○「ささえあい かわら版」は冊子から新聞形式となり見やすくなった。年に1回、人気のあった行事やイベント等を1枚に集約した特別号を発行するとよいのではないかと。

新しい取組として、スマートフォン体験教室、eスポーツ、移動支援をされているのは素晴らしいと思うが、これらは元気な高齢者が対象で、80歳を超えている高齢者や孤立している高齢者には活用が難しいと感じる。

○「ささえあい かわら版」を射水市公式LINEアカウントで周知しているとあるので、誌面にそのQRコードを掲載すれば今後の情報発信につながると考える。

事業啓発用動画の作成については、今の時代には、2、3分で事業の概要が分かるような動画が必要と考えている。動画を誰に見せたいのか、どのような場面で見られるのかが一番大事ではないかと感じる。自分たちも情報発信に努めているが、会員には届くけど一般の市民の方にはなかなか届かない。動画やホームページを作ってもなかなか見ていただけないので、我々も一緒に考えていきたい。

eスポーツの介護予防への活用については、新聞等でも拝見していて、eスポーツの講演を自分も聞きたいと思っており、大変良い取組であると思っている。商工会青年部では、小学生等を対象にしたeスポーツの体験会を実施しようとしているので、例えば、高齢の方と子どもたちが一緒になってゲームを体験できるような機会があれば良いと考えている。これからeスポーツという事業はまだまだ広がっていくと思うので、自分も勉強していきたい。

移動支援に関しては、黒河あいのりタクシー事業は大変良い事業であると感じた。ただ、黒河地域には、お店や飲食店等もたくさんあるので、お買い物と病院だけではなく、お食事や美容院に行きたいという要望にも応えられるように活用ができればより良いと感じた。

○情報の周知方法について、富山福祉短期大学も高校生の方はどうやって見てもらうかは本当に悩んでいる。なかなか難しい。今の高校生はYouTubeではなくてTikTokやInstagram、Twitterなど様々なSNSを使用している。どの対象にみてもらうかによってツールが違ってくる。若い人は紙ベースはまず見ないので、TikTokの15秒程度の動画を作ったり、アニメ形式の動画を作ったりといった受け手に合わせた対応が今後ますます重要になってくると思う。

○「ささえあい かわら版」は地域包括支援センターとコーディネーターの活動や地域の活動が住民全体に伝えられるようになって、情報が非常に広がっていると感じている。その上で、費用は地域振興会の負担になっているのか、市の負担になっているのか、また、今後の発行回数や来年の計画についてお伺いしたい。

地域包括支援センターで高齢者の相談を受けたり声かけをしたりしている中で、台風や洪水、地震等、災害時の情報がしっかりと行き渡るのか心配している。こうした情報にスマートフォンで誰でもすぐにアクセスできるようになれば良いと思う。

移動支援について、黒河のあいのりタクシー事業の地域の地域振興会の負担はあるのか。今後の射水市内の広がりはあるのかどうか。

●「ささえあい かわら版」の発行費用は市で賄っている。皆さんの意見をいただいて、適宜、内容を見直し、より良いものにしていきたいと考えている。

あいのりタクシー事業については、現在実施している地域は黒河地域だけである。地域振興会の費用負担があるため、各地域振興会の中で高齢者のニーズ調査等、協議し、必要であれば他の地域でも実施されていくものと考えている。

○「ささえあい かわら版」は、字が小さい部分があり、高齢者は小さい字が読めないので、誰に読んでほしいのか対象を少し絞った方が良いと思う。事業を実施していない榊田地域でもきらら射水100歳体操やその他でお知らせしたいので、発行部数を増やしてほしい。参加者のつぶやきや生の声をもっと掲載したら、身近なものとなって良いと思う。

自分は、民生委員をしているが、90代の一人暮らしの方からスマートフォンが壊れたと連絡があり、見てみると電話の音量が小さくて聞こえないだけであった。こうした方々に、スマートフォンの使い方でもちょっとした困り事を助けてくれる仕組みがあれば良いと思った。スマホ決済はとてもよいことであるが、使いこなせない人も多いと思う。コロナ禍で対面の訪問ができないのでスマートフォンはとても重宝する。

eスポーツについては、榊田地域でも富山県主催の体験会が開催される予定であるので、とても楽しみにしている。出かける機会の少ない方に、外の世界の刺激を与えたいと思っているので、eスポーツの活用は刺激となってとても良いことである。

移動支援については、黒河のあいりタクシー事業では事前予約が必要であるため、例えば、コースにはないが歯医者等、突発的に利用したい時でも補助があれば良いと思う。地域住民の方がここに住んで良かったと、自分の居場所があって、いつでも行きたい場所にいけたら良いと思う。

○「ささえあい かわら版」は情報発信には良いと思う。

スマートフォン体験教室は良い取り組みであるが、詐欺への対策を求める。

eスポーツは、コミュニティセンターだけでなく、地域の公民館でも身近な形で取り入れていけたらと思う。

移動手段として、デマンドタクシーは使いづらい。榊田地域は面積が広く人口が少ない。隣近所が離れていて交流しづらい面がある。榊田地域のような市の隅に住んでいても、情報を有効に使って、地域に合った方式を市の支援のもと、住みやすい環境が整うようになれば良い。

○取り組んでいる事業は良い事業ばかりであると思うので、どうやって継続していくか、どう充実させていくかのかがとても大切である。

富山福祉短期大学では、射水市と包括的連携協定を締結しているため、様々な事業で協力して取り組んでいきたいと思っている。例えば、スマートフォン体験教室の中で学生を巻き込んだ取り組み等、本日のご意見を踏まえて、学生ができることは何か、一緒に考えていきたい。

eスポーツに関しては、まずは高齢者にデジタルの部分に慣れてもらい、その中でeスポーツ、脳トレ、動画といった選択肢が広がっていけば介護予防につながっていくと思う。デジタルは若者が得意分野であるが、これまで高齢者福祉については若者がなかなか参加してくれなかった部分もあるので、デジタルを切り口に若者も一緒に取り組んでいくようになれば良いと思う。

射水市だけではなく富山県全域の課題でもあるが、地域差が出ないように、こちらの地域は移動ができているけど、あちらの地域は移動の支援がないということは問題であると思うので、全地域で地域に合った移動システムが構築できるように行政が支援していけば良いと思う。

○脳トレアプリを検索するとたくさんのアプリが出てくる。きららか射水100歳体操等の集いの場で、こうしたアプリを活用してはどうかと思う。体操だけをやって物足りないという参加者には、そういったことを紹介して、参加者同士でその場で点数を競い合うことで新たな楽しみが生まれると思う。

移動支援について、お年寄りはい買い物に非常に困っている。各地で移動販売車が活躍しているが、きららか射水100歳体操の会場に移動販売車が来てくれると、帰りに買い物ができるので、参加者にとって便利ではないかと思う。

○今年度から、各自治会や地域振興会単位で会合の参加確認や安否確認ができるアプリの活用が始まっていると聞いている。現状、アプリの活用状況はどうなっているのか。また、射水市地域支え合いネットワーク事業とのつながりや活用はどうなっているのか情報があれば聞きたい。

●今ほどのお話は、地域コミュニティDX活用モデル事業で導入している自治会アプリ「結ネット」のことであるかと思う。この「結ネット」は、自治会単位に導入して、例えば総会の出欠をとることや回覧版のデータを閲覧することができる機能を持ったアプリのことである。基本は自治会単位での導入としているが、自治会の中でも各世帯の家族全員で使用している団体もあれば、役員だけの連絡ツールとして使用しているという団体もあり、団体によって使い方は様々である。先程、災害時の話もあったが、こちらのアプリには災害モードとして安否確認ができる機能もある。

○スマートフォン体験教室や「結ネット」は連携してくる部分なので、それぞれ単独で事業を進めるのではなく、統一的に講座や研修会を実施すれば、eスポーツや脳トレ等、さらに派生して、まとめて事業を進めることができる。そういった企画を考えていただければ、富山福祉短期大学の学生も協力できるのではないかと思う。

●この「結ネット」を初めて導入された野々市市では、すべての町内会が「結ネット」を使用している。今後、本市の地域振興会の役員の方々と野々市市を視察する予定である。どのように普及されたか、どのような活用をしているのか、今後の展開や課題等、話を伺う予定である。

●「結ネット」では、「ささえあい かわら版」を毎月掲載しており、本事業と連携して取り組んでいる。

本日の会議では、大変参考になる意見が数多くあったので、下半期に反映できるものはすぐに取り組んでいきたい。